浜松
南高新聞

発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米津町
印刷
浜松共同印刷株式会社

正しいメガネでしあわせを…
メガネの吉田屋
広小路店　浜松駅前広小路通り　☎53―1198
浜支ビル店　浜松郵便局前（浜支ビル一階）☎54―0181
高台店　浜松・幸一丁目（ユニー前）☎73―8118

信念を持って

人生の岐路に立つ

生きがいに燃えて

新しい年を迎えてはや二ケ月。そろそろ春の香が漂い初め、今年もまた卒業の季節がやって来た。高校生活の三年間という短い期間にいろいろな経験を経て、希望を胸に新たな世界へと飛び込もうとしている三年生の方々は、その出発への期待と不安で満ちている事だろう。これからの人生の中にはつまずく事も回り道をする事もあるだろう。しかし、それにめげずに頑張って欲しいものだ。

将来どんな時代が来ても、思いきり、強く、大きく、一歩を踏み出し、健康で歩みつづけることを祈ります。

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。一生の間には、いろいろな時があります。その区切り、区切りの中で想い出に残るような事があれば最高の時が過ごせたのではないでしょうか。卒業という一区切りを向かえた三年生の皆さんの胸の中には、この南高校で過ごした思い出が一杯に詰っていることでしょう。新たな友人との出会い、スポーツに汗を流したこと、勉強に、そして部活動に打ちこんできたことなどなど。そして時には苦しみ、自分の行動に疑問を抱き、また真剣に悩んだこともあったでしょう。しかし、苦しみ悩めばその分だけ成長したのではないのでしょうか。フリーチェという人の言葉に、「人生は学校である。そこでは、幸福より不幸の方が良い教師である。」というのがあります。辛い時にこそ、人間の真価が問われるのではないでしょうか。この多感な高校生時代に抱いた苦しみや悩みは、きっといつか役に立つでしょうし、時が過ぎれば良き思い出にもなるでしょう。

小、中学校とエスカレーターに乗って来て、自分の足で進む第一歩を踏み出して皆さんは南高へ入学して来ました。三年間はあっという間に過ぎ、高校生活にピリオドを打ったのです。

それと同時に再びスタートライン上に並んだのです。大学進学の方もいれば就職して社会へ出て行く方もいます。人生の第二歩目を踏み出す時なのです。その前途には数多くの障害があることでしょう。しかし皆さんには「若さ」があります。「若さ」ということは言葉を変えて云えば未知だということであり、可能性だということです。今は最悪でどうしようもない、と思っている間は、まだ最悪の状態ではありません。その試練にくじけず、それを心の糧としてより一層大きく成長して下さい。

三年生の皆さんは未来に向かってのみ生きる特権を持っているのです。そして、その未来を切り開き、我が物とすることのできるのは、自らの努力と能力より他にはないと思います。若き日々を「生きがい」に燃え、誇りと充実感を持って頑張って下さい。長い人生に幸多きことを心から祈ります。

我々は卒業生の皆さんの努力によって築き上げられた伝統を汚すことなく、より南高が発展して行くよう務めたいと思います。それが卒業生の皆さんへの最大の恩返しだと思うから……。

厳しい状況の中で

本年度の進路状況は、共通一次の出願数が二二八人、二次試験における出願数は国立大に九四人、公立大に二七人、私立大に六九〇人となっている。例年通り私立大への出願数が非常に多いということが特徴といえるだろう。

学部別にみてみると、やはり理工も含めると工学部（二二八）がトップとなっており、次いで経済学部（一二二）、文学部（七九）教育学部（七一）法学部（六一）となっている。

最近では、大学受験のためにノイローゼになったり、親を殺害したりということがマスコミをにぎわせているようだが、自分をしっかりみつめ、自分の適性を把握したうえで志望大学を決めたり、学部を決めたりしていけば、こんな悲劇はおこらなかったかもしれない。

しかし本校の卒業生の皆さんは現在、自分のおかれている立場を自覚し、受験に臨んでいることだろう。三月上旬には、国公立大の二次試験が開始されることになっている。今まで努力して積み重ねてきたものを十分に出しきり、堂々と胸を張って入学してもらいたいものです。商業科からの進学希望者は、私立大（二）、短大（七五）、各種学校（一七）と合計九四人となっている。大学への進学希望者を昨年と比較してみると約二倍近くになっている。これは社会情勢が好転のきざしをみせていることを反映しているのだろうか。

商業科の就職状況は、昨年度あたりから好転の傾向にあり、好調のうちに推移した。ここ数年続けられた最低必要数のみの採用の反動から事務職については、一社あたりの求人数は昨年並みだが求人企業の増加がみられた。就職内定者は一三七人で、その内訳をみてみると、卸小売業（三九）製造業（三五）金融・保険・証券（三一）サービス業（二〇）運輸・通信業（六）建設業（三）公務（二）電力・ガス（一）と以上のようになっている。昨年と同様に、卸小売業が最も多く、全体の約二八％を占めている。普通科の就職内定者の内訳は、製造業（五）卸小売業（一）金融・保険・証券業（一）となっている。

職業を選択するということは、受験校を決めるのと同様に、自分についての一生の選択である。いやになったからといって、投げ出すことはできない。物事を中途半端で終わることは、大変後味の悪いものである。職業選択の上でざ折するということは、将来の道をあやまったことに等しい。だから自分を中心として、何度も父兄、先生との話しあいをもったことだろう。その上での決定だから後悔することはないはずです。これから長い間その職場で自分の能力を発揮し、「会社になくてはならない」そんな人になってほしいと思います。もちろん進学される方たちにも同じことがいえるでしょう。これから四年間、あるいは二年間という期間、自分を磨きあげていって下さい。大変なこととは思いますが、この障害を乗り越えて欲しいものです。来年、さ来年には私達の問題になるわけですから、今からでも自分をみつめ直し、このきびしい現実を素直にとらえていくべきだと思う。それが自分にとって最大のプラスとなるのである。

（　）内の数字は、二月九日現在の出願数・内定数を示す。

出願状況	
国立	94
公立	27
私立	692
短大	75
各種学校	17
学部別志望	
工学部	228
経済学部	122
文学部	92
法学部	96
他	273

2月9日現在

論説

時を重ねる

昭和五十三年四月我等、現三年生は、南高生としてこの地を踏んだ。思えば、高校生活で最も希望に満ちあふれていた時期に違いない。だが、それも日々に埋もれ、乾いていった。一体、あの感激は何処へ行ってしまったのか。

その後、現二年生が南高生となり、現一年生が後に続いた。おそらく、彼等も最初は我等と同じく胸を躍らせて高校生活についたことだろう。その意気を今も持ち続けているだろうか。

そして今春、さらに来春……毎春、幾度となく新入生がここ南高に集うことだろう。

こうして歳月は過ぎていく。歳月はわずかでも色々な変化を我々にもたらす。我等が南高で過ごした三年の間にも、数知れない人達と出会い、また別れていった。中でも思い起こせば、卒業された諸先輩、離任された恩師の方々、それに様々な形で本校を離れていった仲間……、それぞれに感慨を伴いあれこれと回想されることが多々ある。

去る者は日々に疎しで、それら一人一人は忘れられていくかも知れない。だが、彼等が残したカラーはそうやすやすと消えるものではないだろう。現に彼等は今だに我々の記憶に息づいているではないか。当然、我等は彼等のカラーに染まっただろうし、また後輩諸君をそのカラーに染めてきただろう。そして後輩諸君も次代を、さらに次代を絶えず染めていくだろう。その色はやや変遷こそすれ、次第に濃密となり、本校独自の校風を築き上げるに違いない。それが歴史であり、伝統である。その歴史と伝統が今この時にも蓄積されつつあり、きっと近い将来結実されるのである。

ここまで思いを馳せるなら、つくづく時流の重みというものが感じられてならない。時勢は潮流となり、絶えず流転する。時に波打ち、時に逆巻き、時は流れる。我々はその潮に浮かぶ小舟のようなものだ。漕がねば流される。下手をすれば沈むかも知れない。しかし、一人漕ぎ二人漕ぎ、皆が一斉に同じ方向へ漕ぎ出せば、そこに船路ができる。後に続く者があればあるほど、その船路は強く新たな潮流となっていく。何とその力は大きいことか。そのような潮流を早く生み出したいものだ。

三年間、私は新聞部員として活動してきた。今でも初めて新聞を出した喜びを覚えている。新聞を出す毎にそのような新鮮な喜びは薄れていった。だが、同時に重ねるという奇妙な喜びを覚えるようになった。自分の創り出したものが、時を重ねる毎に新聞を一枚一枚重ねていく喜びである。思うに、こうした喜びがあるからこそ、歴史や伝統を築く喜びがあるのではないか。この論の初頭で清新な感激の喪失を嘆じたが、それと引き替えにこうした喜びを知ることが、これから必要であり、大切なことのように思われる。

さて、読者は本年度本校在校生が南高の一つの節目であることを御存知だろうか。三年生は南高創立と、二年生は南高開校と、それぞれ同時期に生まれた世代であり、本校と歴史をともにしている。そして、一年生は南高以後の世代であるとともに本校創立二十年を担う世代でもあるのだ。正に歴史と伝統を重ねる上で、節目と呼べるのではないだろうか。

二十年という歳月を、読者はどのように感じられるだろう。私はこの歳月が持つ意義を特に強調したい。

〝後輩諸君は創立二十年を迎える本校に、誇りと期待を掛けるのだ。〟

〝三年生は南高とともに成人を迎える自分の人生に、二十年の努力を賭けるのだ。〟

そして〝我々は後二十年で迎える二十一世紀に、この歴史を架けるのだ。〟

こうして歳月は過ぎていく。時勢が潮流となり、流転する。南高が創立二十年を迎え、同じく三年生が成人し、二十一世紀を迎える……、そんな二十年の時間など、前に記した悠久の時の営みに比べたら、ほんの刹那にしか過ぎないのだろう。だがそこに生きる我々がこつこつと努力して時を重ねてこそ、悠久の時も埋まっていくことを忘れてはなるまい。

今年もまた、卒業生が本校を離れていく。会者定離の理とはいえ、愛別離苦の情が胸に込み上げるのも人の常だ。しかし、その後には新しく出会うものが待ち受けている。その出会いに期待しよう。今はただ惜しんでいる時ではない。ひたすら日を追い、時を重ねていくだけだ。そして、いつか機会があったらまたお会いしましょう。

K・M

先生の高校生時代

苦学の道を

▲佐野先生

ぶしょう髭をはやし、カバンを小脇にかかえ、何かにとりつかれたように猫背でとぼとぼ歩く、およそ学生とはほど遠い風采をした、一度会ったら忘れられない異様な雰囲気を感じさせる高校生―それが私の高校時代の姿だった。父死去、母の実家での居候という高校進学上極めて不利な条件の下で、私に許された学校は、地元の林業高校だけであった。当時私は、普通高校へ進学し、苦学してでも大学へ進学したかった。しかし、その夢も、過酷な運命の前にはかなく破れていった。底知れぬ無力感を抱きながら、その学校の入学式に臨んだ。入学後一ケ月も経たない内に、「眼をくれた」といって、チンピラ風の学生が校内の便所に私を呼びだし、無抵抗の私に、仲間と二人で暴力をふるった。私は、どうしてもそのような暴挙は許すことができず、生徒会に直訴した。その結果、その生徒は、自分の取った行為の責任を、取らざるを得なくなった。

教室内では、自発的に学習する生徒は少なく、精神年令が低いと思われる生徒が多かった。この事件以来、私は、厭世観に陥ってしまった。「このような学校に、このままいていいのか」という焦燥に悩まされる毎日であった。それでも、中には互いに悩みを語り合える友人もいた。彼等こそ、私の学校での生活を支える唯一の力であった。こうした暗い生活の連続の中で、思い出に残ることもあった。演習林での下刈りが、その一つであった。

容赦なく照りつける日ざしの下流れる汗をぬぐいながら、山林の傾斜面を、下から上に向って、自分の身長よりも大きい雑草を、長い柄のついた鎌で刈りながら、登っていくのである。茎を切断し、その独特の臭いを生々しく鼻の粘膜に感じた時、日頃のうっぷんも消しとんでしまった。その後、眼病を煩い、それをまたとない理由にして、ある普通高校へ翌年の四月に転校した。人の一年は、わからないものである。私の運命の歯車は、好転し始めた。

転校先では、圧倒的に女子部員が多いコーラス部に所属し、周囲を気にしながら、蛮声をはりあげた。数学と物理が、特に好きな科目で、毎日自宅で問題を解くのが楽しみであった。それでも、屈折した私の心は、容易にほぐれず、自分に沈潜してしまう傾向は、以前としてなくならなかった。その主な原因は、単位数の関係で、次学年（二学年）に編入できず、同一学年で再び学ぶ破目になったことであった。私が、一人自分の身を、悩みの淵に深く沈めている間に外界は目まぐるしく変化していった。米ソの対立を背景に米国の極東政策が一大転換し、日本は名実共にその一翼を担う結果になり、軍事的にも経済的にもその基礎ができ、それを基に、同盟国としての責務を国策として次々具体化した。その結果、国論は二分し、国会の内外は、騒然となった。もちろん、私はこうした社会の動きを知る由もなかった。

華やかさ空回り

主客なきを悔

＜予餞会＞

▲浜南の石野真子

去る二月十日、本校体育館において恒例の行事となった、予餞会が催された。この予餞会の持つ意味は、楽しく三年生を送り出すというところにある。しかし残念なことに、今日の主役である筈の三年生のために用意された前列の座席には、なぜか空席が目立ち、その情景に、胸が締めつけられるような気がした。受験の準備やその他で、多忙な三年生のことだから性がないと言われるが〝予餞会はいったい何の為にやるのか〟という疑問が湧いてくる。一、二年生は、のど自慢が終わるまでは残っていることになっていたので、一応全員出席していたようだ。

プログラムは昨年の内容と比べ大きな変更は見られず、管弦楽部の演奏に始まり、演劇サークル、のど自慢、表彰、そしてその間に漫才が取り入れられ、最後に有志バンドによるロックの演奏が行われた。以下発表内容を紹介していく。

まず、いつも全校集会で、校歌の演奏をしてくれている、管弦楽部の『ピンクパンサー』より導入部を、次に『ハッとして！GOOD』、そして『ダンシングシスター』、最後に『Mr.ブルー～私の地球』を演奏してくれた。演奏者達は全員、シルクハットをかぶって演奏し、演奏だけではなく別の面でも私達を楽しませてくれた。まず、映画『ピンクパンサー』から〝ピンクパンサーのテーマ〟。この曲は映画を見ていない人でもどこかで一度は聞いたことがある曲である。そして『ハッとして！GOOD』、現在芸能界アイドルナンバー1の歌手〝田原俊彦〟の曲で、女生徒にとっては、楽しみにしていた曲とか。演奏が始まると、口ずさむ生徒までもいた。そして、『ダンシングシスター』『Mr.ブルー～私の地球』なども すばらしい演奏で、かなり好評であった。

次にショートタイムを利用しての漫才。今回は、二組の漫才コンビが登場してくれましたが、漫才ブームであるこのごろ、笑いに慣れてしまっているせいか、この二組の漫才には、かなり〝しらけ鳥〟が飛んでいたようである。

次に演劇サークルによる、「おいの池」が演じられた。それは、ある一つの小さな池に伝わる話で四国のある村の娘と奈良の修業中の坊様との悲しい恋の物語なのである。しかし残念なことに、マイクの調節がうまくいっていなかったらしく、感動のシーンを、後席まで伝えられなくて、後席の在校生の間で、私語が交わされており「三年生に楽しんでもらおう」という思いも、会場の真中をはさんで切れてしまったように思われた。

次は今回最大の呼び物、〝のど自慢〟で今まで私語を交わしていた生徒たちも、この時ばかりは、ステージに注目していたようである。大きな歓声と共に、のど自慢大会の幕開けとなった。会進行にあたって、少々しらけるところがあったが、それとは打ってかわって出場者も観客も一体となって、熱気ある楽しいひと時であった。一応曲目を紹介すると、『くちなしの花』、『キングコング』、『ロボット』、『恋のハッピーデート』、『Mr.ブルー』、『チェリーブラッサム』、『哀愁でいと』で、特に『くちなしの花』では、先生が、学生服を着て御自慢の咽を披露され、聴衆を驚かせた。また、花束を渡しに行った女子生徒に、上から物が落ちてくるというシーンも見られ、会場はかなり盛り上がっていた。しかし、今回ののど自慢を通して感じた事は、本来の姿である、のどを競うことにプラスαして、この大会のために用意された衣装と、出演者たちは、聴衆に歌と衣装と、どちらを見てほしいのか、という点において疑問が感じられるのであった。

最後に有志バンド、出場バンドは、〝しゃみバンド〟、〝メリージェーン〟、〝マルセイユ〟で、ここから自由参加になったこともあってか、演奏が始まるころには観客も減ってきていた。南校のバンドは昔から優秀であり、今回も見事なサウンドで我々を魅了してくれた。この日の為に、一生懸命に練習を積んだ、各バンドの熱演ぶりに、来席した三年生もしばし受験の事など忘れて楽しんでいた

以上プログラムを追ってきたが全体として、盛り上がりに今一つといったような気がした。それに加えて、在校生の間で私語を交わしたり、トランプをしているものがあった事は非常に残念であった送る在校生も、友の熱演を見てこそ予餞会の意義があるのではないか。本年度には前述したような点に留意し、又、改善されていくことを期待する。

取材日記

青春讃歌

某月某日

某テレビ局が本校に来た。それは、某テレビ番組の撮影のためだったテレビ局の人達は、いろいろな面で撮影していたが、実際に放送されたのは、南高の印象、生徒会長の話、救急処置の練習、部活動、三年生の藤田さんの事などだった。特に、藤田さんへのインタビューまであったようだ。テレビを見ていた人達にありのままの南高が伝わったでしょうか。またテレビに映った人どうでしたか。きれいに映ってましたか。

某月某日

夜、ちょっと外に出て空を見上げると、一面に星世界が広がっているのが目に映ります。冬の星はとてもはっきり美しく見えます。いらいらしている時など空を見上げるといっぺんに吹き飛んでしまいます。また、空気が冷たいので眠気ざましにもなります。皆さんも寒いなんてこたつにもぐり込んでないで気分転換に試してみませんか。

某月某日

私達自転車通学にとって風の強い日はとってもつらいものです。特に坂道は苦しく、時には歩かなければ進めなくなる日もあります。また時々突拍子もない逆風が吹くので、左右にそれたりして車に迷惑をかけてしまいます。

暦の上ではもう春なのにまだまだ寒い毎日です。でも近頃、心持ち暖かくなってきたと感じます。早くポカポカとした暮らしい春が待ち遠しいものです。

遠州灘

▼肌をさすような冷たい風の吹く今年の冬も終わりを告げようとしている。去年が暖冬であったためか、今年は例年より厳しい冬を迎えたようだ。東北地方、北陸地方など雪国の地方の人々も慣れてるとはいえ、大損害を被ったものだ。昨年に続く異常気象には、全く悩まされるものである。▼先日、先生から、自転車置場の拡張の話について聞かされた。「なんだ、そんなことか」とバス通学の人はそう思うかもしれない。ところが、自転車通学者にとっては大変嬉しい事である。市内の某校では、自転車通学者が生徒数千数百人に対して三千人あまりというのに、本校の場合約八十%をも示めている。これでは幾ら本校の自転車置場が広いとはいえ全部がきちんと入る筈がない。私達自転車通学者にとって一刻も早く造って貰いたいと思う。▼最近、校内暴力やボイコットなど学校生活における事件が新聞の社会欄、或いは三面記事等を賑わせている。それが悪いとは言い切れない。だがもう一度、学生というものを根本的に考え直してみる必要があるのではないだろうか。我が南高の生徒の中で「真の高校生像とは何であるか」と問われればっきりと答えられる人が何人いるだろうか。物質的に恵まれているとはいえ恵まれすぎている現代。それが返って人間に甘さを与えてしまったのかもしれない。▼免許を取り上げられたためにボイコットする、注意されて暴力をふるうという事が、一方的に悪いとは言い切れないということは判っているだが、欲望が先に立ってしまうのは人間だから仕方がないと考えるのは、言い訳にしかならない。苦しさから逃避してしまっている。私達は、今一番吸収し、経験し得る事のできる高校生という立場に於かれているのです。もっと積極的な態度で高校生というものを自覚したいものです。▼春は、出会い別れ……こんな事が多い季節である。「人生には別れは付きものだよ」というような言葉をよく耳にする。三年生が卒業して、四月には新しい一年生が入学してくる。これが普通であり、時間は機械的に過ぎていってしまう。永久に別れてしまったというわけでもないのに、なぜか私は毎年これが寂しく感じられる。でも私達は、快く三年生を送り出してあげなくてはならないのです。▼こうして高校生活を振り返ってみると、まるで昨日の事のように色々と思い出される。よく言われる言葉で恐縮だが、決してこの一年間が短くは感じられなかった。寧ろ中学生三年間よりも長く感じられた。人によって思い出というものは違います。汗まみれになって扱かれて散々だったと思う人が、五年、十年たって懐かしい思い出として、「なんて幸福な時だったのだろう。」と思うかもしれない。またその逆も有り得る。人の思い出というものは、何処へ行ってもついてくるものなのです。青春は二度と帰ってはきません。後悔する事のない人生を送りたいものです。また、三年生の方々、南高を安心して私達に託してください。そして、マイウェイを行くようにしてください。

御通学には指定制服で
女子冬指定服
〃夏スカート
〃コート
男子制服詰エリ
生地純毛日毛カシドス地
〃　ギャバ地
御調整
大森洋服店
浜松市佐藤町　TEL㊿3288

PORTOPIA'81
3月20日開幕!!　知りたい未来がここにある
21世紀からのメッセージ
春うらら、
さあ、みんなで、でかけましょう!!
お問合せ・お申し込みは、
あなたの街の交通公社へ
日本交通公社
浜松支店
☎(0534)54-6981
〒430　浜松市鍛冶町2　西武デパート前
営業時間　10:00～18:00（土曜13:00まで）

オリジナルユニフォームを
作ってみないか!?
★君たちのデザインを
トレーナー・Tシャツ・チャンバー
etc.にプリントします。
詳しくは、お店でどうぞ!!
コックス
●コックスは今、静岡・愛知・三重・岐阜・神奈川・東京・宮城に40店舗。

生徒募集
いけばな教室
全国に花をお届けする
花徳
教室・東田町店2階
遠鉄浜松駅南
電話52―9086

ジャズ・ロック・フォークの店
エレキ・アンプ・キーボード・フォークギター
楽譜（ロック・フォーク）豊富にそろえました。
フォーク
エレキ　輸入セット弦・3割引!
谷島屋3F　楽器コーナー
浜松市連尺町26　TEL 53―9121

新風を注入

主体性の確立を

活発な活動を望む

〔生徒会〕

〈会長〉24HR　鈴木喜雄

来年度前期の役員を決める時、某先生が僕に、「続けてやれ。」と言いました。その先生がどういうつもりでそう言ったのかは、よく分からないけれど、それは僕には無理ではないでしょうか。前期には文化展という大行事があり、僕の手にはおえないと思うからです。

さて、僕は皆さんの御存知のとおり、〝しゃみバンド〟というバンドを結成し、そのリーダーをしています。これからも機会がある度に、そのファイトをぶつけて行くつもりです。これからも、生徒会チームをどうぞよろしく。

〈副会長〉24HR　横張晴彦

半年間仕事をしてきて、とてもきつかった。軽い気持ちで入り、最初は仕事が分からないことを理由に、会長達にずいぶん迷惑をかけてしまった。今期の仕事には、あまりパッとしたものはなかったけれども、仕事の大変さを肩で感じることができた。

もし生徒会に入らなかったら、〝責任〟というものを理論的にしか理解できなかったと思う。大学を出て一般社会へ出た時、責任というものの重要さを知らなかったらすぐに屈折してしまうであろう。そういう意味で生徒会に入ったことを誇りに思う。

〈副会長〉28HR　中野洋子

みなさん、こんにちは！

私の副会長としての任務も無事終了。でも、満足に仕事ができませんでした。本来、副会長というのはある意味で会長よりも大変な仕事で、色々と気をつかわなくてはなりません。それを承知で引き受けた私だったけれど実際は……反省すべき点ばかりです。

私が後期生徒会活動に参加して最も強く感じたことは、皆さんの協力が少ないことです。生徒会を批判する前に、もっと協力して下さい。私達もできることは精一杯しますから。次第に近づいて来る文化展を成功させるためにも、又よりよい生徒会を築いていくためにも御協力をお願いします。

〈書記長〉21HR　飯尾嘉紹

時がたつのは早いもので、十月に後期執行部を引き継いで、半年が経過しました。任期中には体育大会・予餞会・カルタ大会・球技大会など、さまざまな行事がありました。そして書記としての仕事は、これらに関する印刷物の作成であったわけです。自分としては一生懸命やったつもりですが、不鮮明であったり、誤字などがあって、皆さんに大変迷惑をかけたこと思います。ここでおわび申し上げます。そしてこれからも南高発展のために頑張っていくつもりです。どうかご協力お願いします。

〈生活委員長〉24HR　辻　幸徳

僕は知らず知らずのうちに生活委員長になっていましたが、実際仕事をしてみて、そう大したことはない、と思いました。体育大会に関しては少し別ですが……。

これも仕事をさぼっていたからかもしれません。さて皆さんに対して呼びかけてきたことを、ここでもう一度繰り返してみようと思います。

〝遅刻をなくそう〟

〝服装を正そう〟

〝規則を守ろう〟

できるだけ守って下さい。

〈文化委員長〉24HR　青葉匡彦

これで後期生徒会の仕事も終りだと思うと、ほっとする。この六カ月間は、僕にとって地獄のようであった。毎日毎日仕事に追われいきつく暇もなく、たまに仕事がなくて早く帰ろうとしても、習慣とは恐しいものです。足がいつの間にか生徒会室に向かっているのです。大したことはできなかったくせに、それでも仕事はとてもきつかったです。この半年間の仕事によって得たことを、この後を引き継いで行く、来年度前期生徒会のために役立てて行きたいと思っています。仕事の本当のつらさは経験者にしか分かりませんが、みなさんの協力は、いかなる時にも必要です。どうか次の前期生徒会に協力の手を。

〈交通委員長〉25HR　内田浩幸

僕もいつの間にか交通委員長になっていました。体育大会で忙がしかったことや、松永君の事故などいろいろありましたが、全体を通して大体よくできたと思います。

さて、今期もいろいろな事がありましたが、最も重大な事件と言えば松永君のことでしょう。この事故は僕達に数々の問題を投げかけてくれました。ヘルメットの着用に関してや、交通ルールの重要さなど僕たちが既に知っていたことを改めて教えてくれたのです。皆さんはどう思いでしょうか。これらのことは他人の事ではないのです。自分自身の為にもう一度深く、真剣に考えてみて下さい。そこから生まれる答は、必ず何かの役に立つと思います。

中央に鈴木会長
左右に横張・中野副会長

日本の伝統について

古きを訪ねて

日本の伝統的なものは、いろいろと調べてみても、それほど多くはありません。ここで、今月の三日にちなんで、年中行事である「桃の節句」のいわれについて調べてみました。女の人ならば、だれでも一度はやるものです。

「桃の節句」とは、五節句の一つ。ひな祭り・三月節句・上巳の節句ともいわれています。

三月三日にひな人形を飾り、菱餅・桃の花・白酒などを供え、また親類が初節句の女の子にひなを贈ったりするなど、女児の節句とされているが、このようなひな祭りになったのは歴史上、それほど古いことではありません。

「上巳の節句」というのは、はじめての巳の日の意で、平安時代貴族間でこの日に陰陽師（おんようじ）を招いておはらいをさせ、また人形（ひとがた）にけがれやわざわいをうつして川などに流す行事があった。三月節句に紙びなを川に流し送る〈ひなおくり〉の風習が今日も各地に残っており、また野外に出て子供たちの野遊びあるいは人形遊びをするところもある。そして紙から押絵・糸製・土焼製、そして紙粉塗りの飾りびなどひな人形が進歩するにつれて流しびなの風習から飾り人形を主とするひな祭へと移行した。がまだのち、節句の日が三月三日に固定してからも上巳という名称だけは、まだ残っています。

〈ひな〉という名は平安時代に貴族の子女のあいだにおこなわれていたひな遊びという遊戯からでたものだが、それは今日のままごとのようなもので、三月節句に限ったものではなかった。そのひな遊びが、人形制作の進歩とその商品化によって節句と結びつき、ひな祭りに発展していったと考えられている。

ひな祭りのはじまりは明らかでないが、江戸時代後期にはますますさかんになり、大都市にはひな市という都市が立つようになった。

もともとひな祭は近世では、都市中心の行事であったがひろく全国的に広がって三月節句の中心行事となった。なお、ひな祭りは、三月以外にするところもあり、また男児の節句も三月にいっしょにおこなうところもある。また、この日に磯遊び・山遊びをすることも各地でおこなわれているが、これもひな送りの行事であったと考えられている。

初期のひな飾りは平壇で、立びなであったが、次第に土焼のひな人形に移り、細工のこまかさと華かさを加えるようになった。ひな壇に内裏びな・官女・五人ばやし・随身・ひな道具という形式である。

今日のひな人形というのは、とても、華やかな美しいものであるが、平安時代の人形は、紙びなの人形であったらしい。このひなや鍋、食器などの調度は後世まで貴族の家庭での遊び道具になっていた。江戸時代になって三月節句がさかんにおこなわれると、その紙びなを飾っていた。男びなは烏帽子に小袖・袴、女びなは髪を長くたらして小袖を着ていた。頭は粘土製または木彫りにして、胡粉を塗って目鼻を描いた。紙びなは立った姿のものなので、びな屛風（びょうぶ）によせて飾った。やがて切れ地製のすわったびなを飾った。これを内裏びなといった。人形は大きく、全体におおうような感じの容姿のものであった。江戸時代中期からは、おやま人形そのほかさまざまな人形を各家庭で思い思いに飾り並べた。ひな人形のほかに、嫁入りの諸道具の模造品を並べ、正式のひなの膳を供えたが、このようににぎやかに催すので江戸時代中期からは、ひな段も三段、五段と高く設けることになった。今日は内裏びなのほかに官女・五人ばやし・随身・衛士がお定まりの人形になっているが、こうした定まりは江戸時代末期、いつしか江戸で生まれたことである。人形は明治以降全体に小さくなった。最近ではケース入りのひな段も流行してきたが、このひな人形はきめこみ製である。それから、その年の話題を題名にした〈かわりびな〉という人形は、人気をよんでいる。

このように調べてみると、一つ一つの出来事・年中行事やお祭には、どうしてこのような事が、おこなわれるようになったのか、どのような意味がこめられているのか、調べて見ると、おもしろいことがまだまだ、たくさんでてくるように思える。今日では、ただ人形・桃の花・白酒を供えているだけかもしれないが、きっとその人形の一つ一つに何かの意味があるに違いない。

ヘルメットの意義

自転車通学について

近年、交通安全に対する意識が高まり、道路の整備、交通規制の改正などが着々とおこなわれている。しかし、いまひとつ私達自身の交通安全に対する意識にいい加減さはないだろうか。

南高の事故・現状で特に多いのが対四輪の自転車事故である。そこで、自転車通学について、再度、省みたいと思う。

自転車は、誰でも気軽に簡単に乗れるものなので、安易に考えてしまいがちで、点検、調整のされていないものに乗ったり、二人乗り、かさを差したままなどの無謀な運転をしたりする人が増えている。このようなことは、私達のちょっとした注意によって直せるべき点なのである。しかし、目に余る行為が続くため、心配なさった先生から再三注意を受けていたのであるが、残念なことに我校から事故犠牲者を出してしまうという結果になってしまった。

皆さんもご承知のことと思うが23HR松永潤さんである。

この事故が、単に過去に起ったこととしない、考え直すための意味で、あえて彼のことを取り上げさせていただいた。

事故当日、先生からの注意を受けた矢先の事だったので、私達の驚きもひとしおだったと思う。

場所は、狭い四つ角の所で、一見「どうしてこんな所で」と、思えてしまうのだ。しかし、そのような場所だからこそ、起きてしまったのではないだろうか。

一瞬の気のゆるみが、命とりになってしまったといえないだろうか。

そこで以後、私達が自転車に乗る際に注意すべき点を、挙げてみたので、心得て欲しい。

一、交差点での一時停止と安全確認を実行すること。

二、斜横断、併進、二人乗りをしないこと。

三、右折は大回りで、信号のある所は、信号で右折すること。

四、点検、整備をしっかりすること。（ブレーキ、反射器）

五、ヘルメットを着用すること。

このヘルメット着用については各自で話し合われたことと思う。

賛否両論で、「自主的に着用すればよい」とか、「身の安全のために着用すべきである」という声もあがっている。ヘルメットは、やはり着用すべきであることは、誰しも納得していると思うが、松永さんも、一年生当初は両親からの交通指導もありヘルメットを着用して通学していたが、心ない周囲の冷かしを気にし、途中から着用しなくなっていたのだ。もし事故にあっても着用されていれば、軽傷で済んでいたかもしれないのに。着用について結論は出されていないが、中傷的な見方は絶対にしないよう心がけたいものだ。

安心できる交通情況になる事が一番望ましいことだが、交通安全の再認識を行ってみて欲しい。

かぶってまーす

心を鍛えて

寒気を呑む

まだ吐く息が白く、冷たい空気が漂よっています。その空気を意地悪な遠州の風が、団扇で扇いでくれるものですから、よけいに寒く感じられる今日この頃です。でも、そろそろ霜焼けがムズムズしてきませんか。霜焼けが一層痒くなったら春なのだという考えをするのは私だけでしょうか。

さて、誰もが「もう春だなあ」と思い始めている中で、変わらず頑張っているのが運動部です。今から、最近試合を行ったサッカー部と女子バスケット部に、その試合の結果と、様子、そしてこれからの抱負などについて語ってもらったので紹介します。

○サッカー

新人戦

一次リーグ　2－1掛川西

1－3浜松北

6－1引佐

1－1[illegible]

二次リーグ　1－1浜松西

3－2浜松工

県大会　0－3焼津中央

このような結果で、サッカー部は西部大会でベスト8入りをしました。ここで、これからの抱負を聞いてみたら「今度行われるフェスティバルで他県のチームに勝ちたい。そしてインターハイ予選で県大会に出て活躍したい。そのために、練習の充実をはかりたい」と、言っていました。

○女子バスケット

西部大会

一月十一日　114－14二俣

一月十五日　71－57日体

59－40[illegible]

三位決定戦　37－43湖東

38－31誠心

県大会　一回戦　シード

二回戦　58－64浜松西

県大会、二回戦で惜しくも敗れた女子バスケット部ですが、そこは南高ドスケ部、悪い点を反省し、ベスト4に入るのが目標だそうです。そして、その目標を達成するために厳しい練習を積んで、他のどんなチームにも劣らないチームを作り、声がないというチームの欠点を失すように努力していると語ってくれました。現在、日曜日も学校へ来て休む間もなく練習に励んでいるそうです。

次に、運動部に負けてはいられないとばかりに、校舎内で一生懸命頑張っている一部の文化部と同好会、そして予餞会で毎日の練習の成果を私達に見せてくれた演劇サークルに、活動内容や抱負などを語ってもらいました。

○写真部

昨年は部員のうちの二人がコンテストで入賞したりして、部がひじょうに盛り上がった写真部は、今年は昨年より一人でも多く入賞するようにと、また昨年入賞できなかった人は、今年こそ必ず、と思い、入賞した人は、今年もまた賞を取ってやろうと、部が、部員一人一人がそれぞれ文化展や写真コンテストに向けて頑張っているようです。

○音楽研究同好会

会員七名で構成されている音楽研究同好会は、キーボード奏者、ピアノマン、パワーあふれるボーカリスト、美声のコーラスがいないそうですが、みんなで協力して頑張ってもらいたいものです。そこで、これからの抱負を聞いてみたところ「六月に予定されている文化展に向けて練習に励むと共に、まとまりのある、すばらしい同好会にして行きたいと思う」と語ってくれました。音楽研究同好会は新聞部部室の隣のクラスで活動をしているのですが、そういえば時々きれいなギターの音が聞こえてきます。

○英語研究同好会

活動日については、水曜日は外人教師による英語会話をしていて、また、この日はコーヒー・ブレイク・タイムとも呼ばれていて会員会員と先生とを囲んで活動しているそうです。私達は英語の授業などでテープを通じて外人の英語を聞きますが、目の前にして生の英語を聞くのとは、やはり違うでしょう。

○漫画研究同好会

十五人の会員で構成されている漫画研究同好会は、毎週水曜日に一時間程度活動しているそうです。この同好会は今までに映画制作、会誌発行、リブレモールにおける漫画展を行っていて、現在は漫画の評論誌を作る準備をしています。また、女子だけの会誌も発行する予定で、五十六年度の文化展では皆が驚くようなことをやりたいと言っていました。

○茶道同好会

この同好会は会員が女子だけで活動は毎週金曜日にだけ行っています。先生はわざわざ南高まで教えに通って下さっているそうです。また、お茶を立てることは精神統一のために良いと言っていました。

○演劇サークル

このサークルは二学期半ばに結成されたばかりですが、予餞会にも出られて今、一番はりきっています。目的は、演劇の楽しさを知って貰い一人でも多くの人が演じる事に触れて貰う事だと言っていました。また演劇には、一人で何人もの人々になれたり、自分を隠すことができ、その中で自分を改めて見直すことができるという一面があるそうです。演劇サークルは部活になる為に、文化展目指して、一生懸命頑張っています。

語ってもらった抱負の中に新たな意欲が感じられます。四月には有望な新入生が入って来ることを期待しながら、ますます頑張っていることと思います。

ボランティア活動

障害者年に寄せて

〝葦の根〟の面々

最近、注目を浴びてきているものの一つに「ボランティア活動」がある。そして今年は、国際障害者年のためもあって、より一層の関心を集めている。ここで「ボランティア活動」というものをもう一度、みなおしてみよう。

現在、地球上には、総人口の約一〇％にあたる四億五千万人もの障害者がいると推定されている。

西ドイツには、十九世紀の中ごろ、社会的に迫害されていたテンカン患者を救おうとしてできた心身障害者の町・ベーテルがある。ここでは、障害者が、キリスト教会の保護をうけて共同生活をしている。しかし、日本のように、障害者と一般社会との隔たりはなく、学校も職場も訓練をして、一般社会へ入っていく。しかし、重度障害者には、やはり自立というものは難しいようである。そんなときこそ、ボランティア活動が必要になってくる。ベーテルでは、若い人のボランティアが多いのだが、日本では、意外と年齢層が広い。下は中学生ぐらいから、上は家庭の主婦まで、全国各地に、たくさんのサークルがある。

私たちの近くにも、ベーテルのようなところがある。それは、天竜市にある、創立三〇年をむかえる天竜厚生会である。ここには、約千人もの重度障害者が、生活している。この障害者数は、一〇年前に比べると五〇％も増加しているらしい。しかし、ボランティア活動に参加している人の数が、障害者の数に、およんでいないのが事実である。

我が南高の「葦の根」・「社会参加委員会」・「点訳部」は、県から推薦され、「第二十五回中日ブルーバード賞」に立候補し、東海九県の中の団体の部で最高の賞である「厚生大臣賞」に輝いた。これは、我が校の社会に対する奉仕が認められたもので、二月二十一日に、中日新聞本社で表彰された。ここで彼らの日頃の活動内容を紹介することにしよう。「葦の根」では、月に一度、根洗町にある「聖光園」という老人ホームを訪れている。他にも、米津町にある「子ども園」に行ったり、先に紹介した「天竜厚生会」に行ったりしている。老人ホームでの仕事は、掃除・爪切り・食事の介助、車椅子での散歩などで、他には、手足をふいてあげたり、話し相手になってあげたりしている。やはり、「ボランティア活動」というものは楽ではないので、いやな事も、くたくたにつかれることもあるけれども、得ることもたくさんある。例えば、涙を流して、心から感謝されると心がすごく温まる感じで、（ボランティア活動をやっていて良かったなぁ）と思うし、自然と他人に対する思いやりがもてる。つまり、「ボランティア活動」というものは、福祉を受ける人のためでなく、まわりにいる私たち自身のためでもあると思う。だから、高校生活の中で、一度でもいいから、「ボランティア活動」をやってみた方が良いと思う。今やらないで、社会に出てからやろうと思っても、ほとんどやる機会がないと思う。確かに、めんどうだし、難かしいことである。しかし、やって損はしないと思う。人間は時として、利害関係を越えて、行動することも必要であるからだ。

ぜひもう一度、自分なりに「ボランティア」というものについて考えてみて欲しい。

春よ早く

雪と言えば誰しもが〝白銀の世界〟を連想するであろう。しかしその連想はこの冬の豪雪によって否定しなければならない状態になった。雪は美しいどころか白魔であったのである。

日本海側に吹き荒れた豪雪は、二月十日までに、死者八十四人、負傷者四百五十七人、家屋の全半壊百五十棟をもたらした。

各地の積雪量は、山形の羽前沼沢三百七十五センチ、新潟県十日町五百四十七センチ、福島県奥只見五百五十四センチ、長野県森宮野原四百七十八センチ、石川県白峰四百十センチ。そして北海道湯ノ岱二百二十四センチで、日本海側は白一色に家まで埋まったのである。

記録的豪雪といえば、気象観測関係者なら無論、一般の人でも思い出されるのが「サンパチ豪雪」―昭和三十八年の大豪雪である。サンパチでの全層密度は一月四日で〇・三四であった。これは雪積の一平方メートルあたり三百四十キロの負荷がかかることを意味する。ところが今回の豪雪では約半月も早く〇・三四にせまる〇・三二になり、雪はなおも降り積ったのである。

豪雪は、生活経済にも徐々に影響を与え始めた。食料品が上がった。豪雪地帯では、長ネギ一本五百円、レタス一個四百円である。六兆六千億円の赤字を抱える国鉄にも約九千本の列車を止めさせ、旅客二十三億円、貨物二十億円の減収をもたらし、除雪費用十億円の損害を与えた。

米の収穫を二十六年ぶりに一千万トンの大台から引きずり落とした昨年の冷い夏といい、今回の冬の豪雪といい、最近の日本は異常気象に見回われている。

冬の豪雪は冷夏の予告といわれているが、今年の夏こそまともな夏を送りたいものだ。

編集後記

もう春といってもよいほど日ざしが和らいできた今日この頃。一年というのは長いようで短いものだとつくづく感じます。三年生にとっては最後の新聞になってしまいますが、高校生活の思い出として大切にしてほしいと思います。一、二年生はまだこれから時間がありますが、むだにしないでほしいと思います。

さて、今回で第六十号の発行となるわけですが、今回は「日本の伝統について」「大雪について」「自転車通学について」など多くの内容について掲載してみました。みなさんそれぞれ考えを持っていると思います。また自分で考えなおしてみるのも良いと思います。

四月には新一年生も入学してきます。我部も来年度は今まで以上より良い新聞を作っていきたいと思っています。またご意見、ご希望などありましたら、遠慮なく連絡下さい。

機動戦士　ガンダム　フィルム　コンサート
只今予約受付中！
3／14発売　オリジナルBGM編 Vol.1
4／5発売　オリジナルBGM編 Vol.2
5／5発売　ドラマ編サントラ
●左記のアルバムのうちいずれか1つ予約してくれた方をもれなく御招待！
とき：3月14日　PM1:00～5:00
ところ：浜松労政会館
イケヤ
本店／浜松市田町有楽街 ☎(0534)52－5151
鍛冶町店／遠鉄名店ビル店／ユニー泉町店
磐田店／aiai磐田店／掛川店／藤枝店／浜北店

All work and no play
makes Jack a dull boy.
エピアは青春に
声援を贈ります
エピアはファッションと文化の出合う広場。
遠鉄名店ビル EPIA
浜松市田町321 ☎(0534)54－3131代

ユニフォーム
を作ろう。
○クラスユニフォーム
○オリジナルユニフォーム
○特別価格で相談承り中
学生専科　マルゼン　有楽街　TEL53－5871
鍛冶町　TEL53－8120

スポーツバック，学生鞄の店
浜松駅前広小路通り
辻梅鞄店
TEL 52－6015

味の王様
ケンタッキー
フライドチキン